

令和3年度ネットリサーチ「地域活動・ボランティア活動」に関するアンケート結果報告書

■結果のポイント

- 地域活動・ボランティア活動への参加状況については、【何らかの活動を行っている】は23.3%となっている。
- 参加した理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が47.2%で最も高く、次いで「自己啓発や自らの成長につながるため」が31.3%と続く。

■調査結果の概要

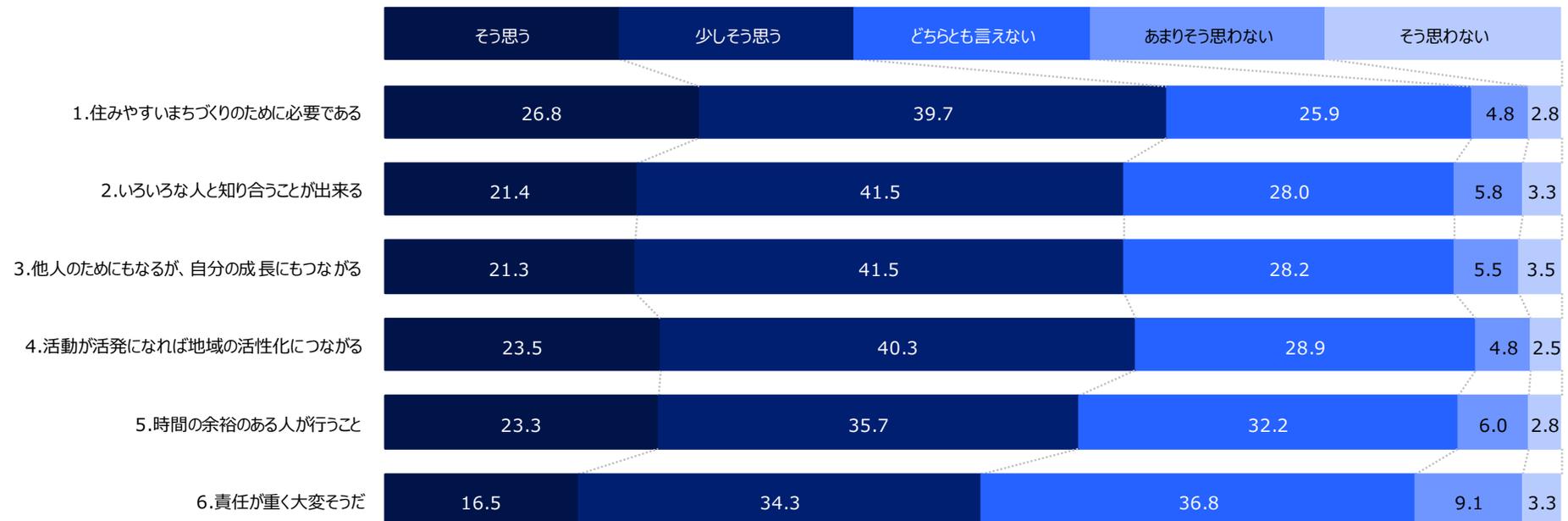
1 地域活動・ボランティア活動に対する意識

◇ 「住みやすいまちづくりのために必要である」について、「そう思う」(26.8%)と「少しそう思う」(39.7%)を合わせた【そう思う】が66.5%となっている。

Q1.あなたは、「地域活動・ボランティア活動」に対して、日頃どのようなお考えをお持ちですか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

※ Q1～4における「地域活動・ボランティア活動」とは、県民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（各種ボランティア、自治会・町内会、子ども会、地域活動、PTA活動、環境美化活動なども含む）のことであり、団体が行う活動への参加のみならず、個人として行う活動も含まれます。

SA



	n	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	【そう思う】	【そう思わない】
1.住みやすいまちづくりのために必要である	100.0	26.8	39.7	25.9	4.8	2.8	66.5	7.6
2.いろいろな人と知り合うことが出来る	100.0	21.4	41.5	28.0	5.8	3.3	62.9	9.1
3.他人のためにもなるが、自分の成長にもつながる	100.0	21.3	41.5	28.2	5.5	3.5	62.8	9.0
4.活動が活発になれば地域の活性化につながる	100.0	23.5	40.3	28.9	4.8	2.5	63.8	7.3
5.時間の余裕のある人が行うこと	100.0	23.3	35.7	32.2	6.0	2.8	59.0	8.8
6.責任が重く大変そうだ	100.0	16.5	34.3	36.8	9.1	3.3	50.8	12.4

2 地域活動・ボランティア活動への参加状況

◇ 「どれも行ってない」は76.7%となっている。

Q2.あなたは、地域活動・ボランティア活動について、この1年間に以下のような活動に参加しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



3 参加した理由

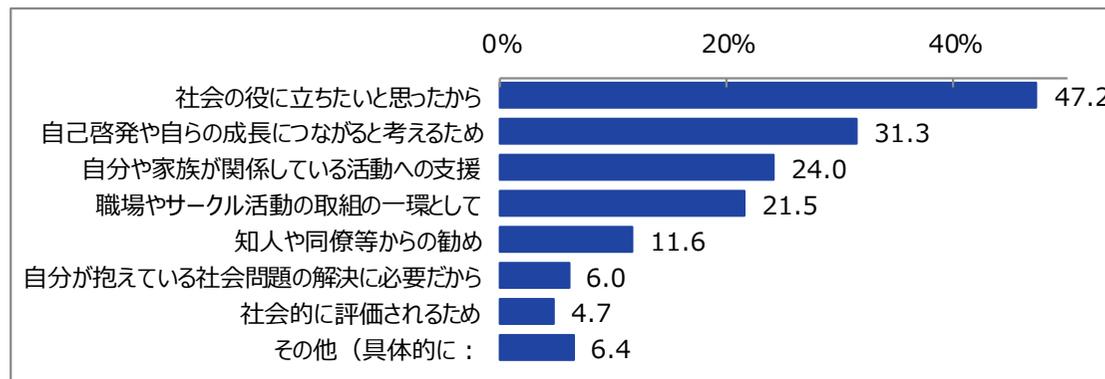
◇ 「社会の役に立ちたいと思ったから」が47.2%で最も高く、次いで「自己啓発や自らの成長につながると思うため」が31.3%と続く。

(Q2で「1」～「11」と回答した方へ)

Q3.あなたが「地域活動・ボランティア活動」に参加した理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	233
社会の役に立ちたいと思ったから	47.2	110
自己啓発や自らの成長につながると思うため	31.3	73
自分や家族が関係している活動への支援	24.0	56
職場やサークル活動の取組の一環として	21.5	50
知人や同僚等からの勧め	11.6	27
自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから	6.0	14
社会的に評価されるため	4.7	11
その他（具体的に：	6.4	15



4 参加の妨げとなること

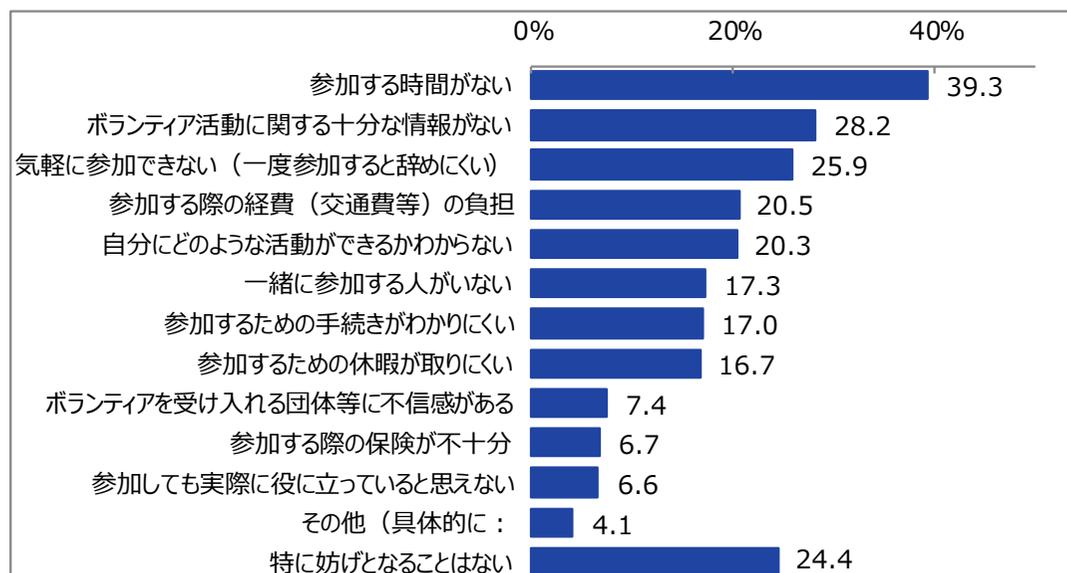
◇ 「参加する時間がない」が39.3%で最も高く、次いで「ボランティア活動に関する十分な情報がない」が28.2%と続く。

◇ 一方で、「特に妨げとなることはない」が24.4%となっている。

Q4.「地域活動・ボランティア活動」への参加の妨げとなることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
参加する時間がない	39.3	393
ボランティア活動に関する十分な情報がない	28.2	282
気軽に参加できない（一度参加すると辞めにくい）	25.9	259
参加する際の経費（交通費等）の負担	20.5	205
自分にどのような活動ができるかわからない	20.3	203
一緒に参加する人がいない	17.3	173
参加するための手続きがわかりにくい	17.0	170
参加するための休暇が取りにくい	16.7	167
ボランティアを受け入れる団体等に不信感がある	7.4	74
参加する際の保険が不十分	6.7	67
参加しても実際に役に立っていると思えない	6.6	66
その他（具体的に：	4.1	41
特に妨げとなることはない	24.4	244



■調査の目的

県民の地域活動やボランティア活動に対する意識や参加状況等について調査し、県総合計画に掲げる「地域の力を高めるコミュニティづくり」の取組の成果を確認し、今後の施策推進の参考とする。

■実施概要

- ・実施期間 令和3年6月11日～6月18日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和3年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		116	246	96	353	189	1,000
性別	男性	60	125	51	181	99	516
	女性	56	121	45	172	90	484
年代別	18～29歳	18	42	17	66	33	176
	30歳代	17	43	17	62	31	170
	40歳代	24	57	21	83	42	227
	50歳代	27	53	19	72	39	210
	60歳代	30	51	22	70	44	217

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。